感染症発生動向調査委員会告　8月

≪今月のトピックス≫

- **麻しん報告数は引き続き減少**
  緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中
- **咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は減少傾向**

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹（病院）定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年7月21日から平成20年8月24日まで（平成20年第30週から第34週まで。ただし、性感染症については平成20年7月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成20年　週－月日対照表

第30週	7月21～27日
第31週	7月28～ 8月3日
第32週	8月 4～10日
第33週	8月11～17日
第34週	8月18～24日

全数把握の対象

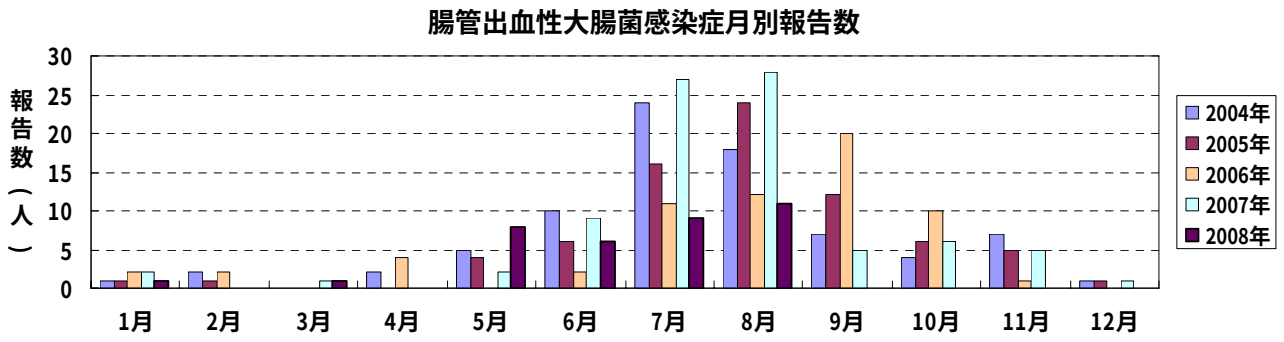
＜細菌性赤痢＞

8月の報告数は、28日現在で2例です。うち1例は、国内発生事例でした。

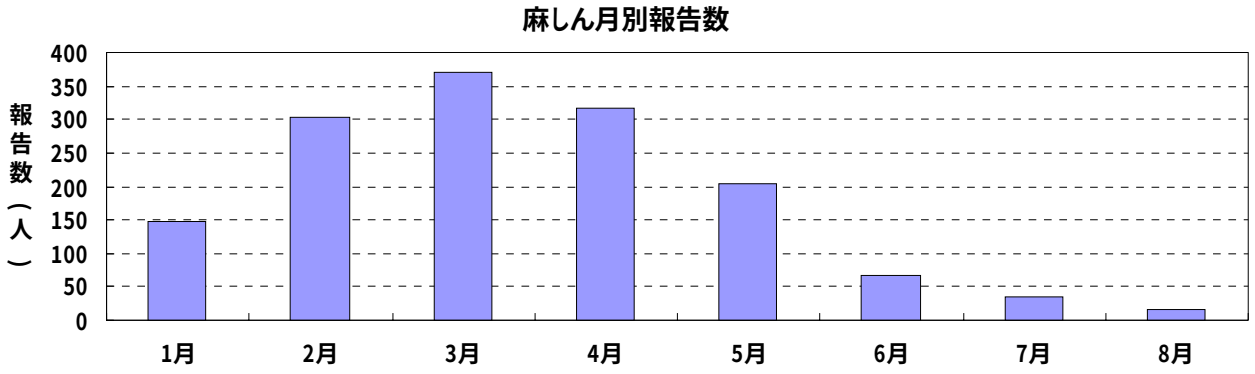
＜腸管出血性大腸菌感染症＞

8月の報告数は、28日現在で11例です。年齢の内訳は、10歳未満が2例、10代が1例、20代が4例、30代が1例、50代が2例、70代が1例でした。例年に比べれば少ないですが、9月にも報告が多いので、注意が必要です。生肉（生レバー等）や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157に注意しましょう」
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf も合わせてご覧ください。



＜麻しん＞
　1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html)
　横浜市では、第34週(8/18～24)までの累計報告数は1460例で、全国の報告数10677例の13.7%です。最近5週間（第30週～第34週）の報告数は23例で、全国の報告数254例の9.1%となっています。年齢別では、約半数が10代で、予防接種前の0歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種



でした。

　2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。
　横浜市では、緊急対策として、未接種･未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。
　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html
　1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種･未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」
　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html をご覧ください。

《日本は、2008 年～2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します》

① 風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握
② 1 歳および就学前 1 年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底
③ 5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

定点把握の対象

＜咽頭結膜熱＞
　横浜市では、第21週から増加傾向となり、第27週に定点あたり1.08と今シーズンで最も高い値となった後は減少傾向です。第34週は定点あたり0.36でした。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.32、川崎市は0.69です。全国は0.63でした。
　啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」
　http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf も合わせてご覧ください。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞
　第2週以降増加傾向が続き、第23週に定点あたり3.67とピークを迎えた後は、減少傾向が続いています。今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移していましたが、第34週は定点あたり0.21と例年並みになりました。しかし、例年8月が一番少なく、秋から冬にかけて少し増えていくので、9月末に向けては、また動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.54、川崎市は0.91、全国は0.70と、いずれも横浜市より高い値となっています。

＜手足口病＞:
横浜市では、第23週から増加傾向となり、第30週に定点あたり4.01とピークを迎え、その後は減少し、第34週は定点あたり1.62でした。行政区別では、泉区(9.00) が高く、緑区(2.67)、栄区(2.67)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.85、川崎市は1.06です。全国は1.41でした。
病原体定点からエンテロウイルス71の検出はありませんでした。

＜ヘルパンギーナ＞
横浜市では、第24週から増加傾向となり、第29週は定点あたり5.78とピークを迎え、その後は減少傾向です。第34週は定点あたり1.84でした。行政区別では、泉区(4.33)、中区(3.75)、金沢区(3.40)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.77、川崎市は1.72、全国は1.20でした。

＜性感染症＞
性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科･皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。
7月は、6月に比べて横ばい傾向ですが、性器クラミジア感染症はやや増加傾向です。19歳以下の若年層については、性器クラミジア感染症で男性は1例ですが、女性は6例と多くなっています。

【病原体定点からの情報】
市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

＜ウイルス検査＞
2008年8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は20件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点は3件(眼脂)、基幹定点は5件(咽頭ぬぐい液1件、髄液3件、便1件)でした。患者の診断名別内訳は、小児科定点は上気道炎10人、気管支炎1人、手足口病4人、ヘルパンギーナ3人、突発性発疹症1人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎3人、基幹定点はウイルス性髄膜炎2人、脳炎･脳症2人、肝機能障害1人でした。
9月10日現在、小児科定点の手足口病患者4人からコクサッキーウイルスA16型、眼科定点の流行性角結膜炎患者1人からアデノウイルス8型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点のヘルパンギーナ患者3人からコクサッキーウイルスA2型(1人)とコクサッキーウイルスA5型(2人)、上気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA4型とA6型が検出されています。基幹定点の肝機能障害の患者(咽頭ぬぐい液と便)の検体からは、コクサッキーウイルスA9型が検出されています。
その他の検体は引き続き検査中です。

＜細菌検査＞
8月の感染性胃腸炎関係の受付は6菌株で腸管出血性大腸菌が検出されました。
溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は2件でA群溶血性レンサ球菌が1件、G群溶血性レンサ球菌が1件検出されました。

【 感染症･疫学情報課　検査研究課(細菌担当･ウイルス担当) 】